長田下地域自治　振興会だより　第３７号

２０２０年(令和２年)３月２６日発行

ふれあいの集い（第二回グラウンドゴルフ大会）11月16日

今回は３３名の参加があり、グラウンドゴルフ同好会のご協力を頂き、休憩を挟んで２ラウンド行われました。

みなさん、談笑しながら和気あいあいとコースを回っておられ、健康増進・お互いの親睦も図られたのではと思っています。

３８打数の１位賞から６位賞のほか、７人の方のホールインワン賞、そして、くじ引き賞、参加賞もあり、皆さん楽しんで頂けたことと思います。　(K. M)

頑張ったよ！

競技中

令和元年度「ふれあい発表会」　2月24日　下長田集会所

今年も、多くの方々に参加（５４名）して頂きました。ありがとうございました。

創意工夫された「自作カレンダー」「点描画３点」「自作のカープ選手のボード」「ペーパーフラワー２点」「手芸かご３点」「手編み（ネックウォーマー)」「写真（ひとはの秋)」など出展して頂きました皆様に感謝申し上げます。

ステージ発表では、詩吟『事に感ず』『中庸』『坂本龍馬を思う』同時に華麗なる剣舞も披露して頂き、カラオケ『潮来笠』『俵星玄蕃』と続きました。みんなで歌える『いつでも夢を』を最後に４曲飛び入り参加もありました。

みなさん、大いに盛り上げて頂きまして、ありがとうございました。

輪投げ２ゲームを行い、最高５５得点の１位から５位まで表彰がありました。

振興会女性役員が準備されたカレーライスを美味しく頂いたのち、ビンゴゲームを行って楽しいひと時を過ごして頂きました。

ビンゴゲーム

輪投げ開始

参加された皆様、準備された振興会役員の皆様、ありがとうございました。

これからも、地域でお互いに声をかけながら、元気に過ごしていきましょう。　(K. M)

令和元年度　蕎麦祭り

❑　蕎麦祭りが、12 月 15 日（日）に「ちゃらんの広場」にて開催されました。今年で第 4 回目となり、地域の恒例行事として、定着しつつあります。前日は、天気予報に反して、時折、強風や小雨の降る中での準備でしたが、当日は暖かい日差しの中で行われました。

❑　メニューは、ゆずがアクセントの打ちたてのかけ蕎麦に、焼いも、ガレット(※)の 3 品です。ガレットには、キーマカレーと水菜・ウインナーをはさんだ 2 種類のガレットがありました。

　開会式が終わるやいなや、かけ蕎麦のコーナーには、長蛇の列ができました。年々、腕を磨かれたスタッフの方々が打つお蕎麦は、とてもおいしかったです。

※　ガレットとは、そば粉がメイン素材のフランス菓子。
蕎麦祭りバージョンでは、卵・牛乳・ベーキングパウダーを混ぜたものに、そば粉を加えています。長いもでも入っているかのような生地のねばりは、そば粉によるものだそうです。

❑　今年は、新たにフリーマーケットのコーナーが設けられ、こちらも賑わっていました。また、レクリエーションでは、木工細工でペンダントを作成し、クイズを交えてのビンゴ大会では、子どもたちの珍回答に会場は、笑いで包まれました。

　予想を上回る参加者に加え、スタッフには 20 代の若い方の参加もあり、蕎麦を通して、地域の人をつなぐ貴重な交流の場だなと思いました。　　（T.K）

『長田下地域の文化財保護と伝承』について考える㉘

今回は、長田下地域で見つけた、昔の面影を残す「ふるさとの住居」について述べてみたいと思います。

長田５区の徳丸の市道を歩いていると、向かいの長田７区下の小高い所に、古民家が見えます。今は空き家で、萱葺(かやぶ)き屋根を金属の板でおおった家ですが、この家の昭和５０年（１９７５年）ごろの写真をみると、母屋の両側に蔵のある民家で、屋根の様式が「箱棟(はこむね)」になっています。

「箱棟(はこむね)」とは、屋根のてっぺんの所（棟(むね)）を、藁(わら)や萱(かや)でふく代わりに木材で囲み、その上に瓦(かわら)などを載せて丈夫にし、雨漏りを防ぐ形式のものをいいます。

ところで、長田に古くから建てられていた「ふるさとの住居」は、どんな場所や条件を考えて建築されていたのでしょうか。

まず第１に考えられるのは、材料が近くの自分の持ち山で切れること。２つには、自分の耕地をつぶさないこと。３つには、生活用水が確保できること。４つには、日当たりが良いこと、などの良い条件をそなえていることではないかと思いました。

わたしたちが幼いころ、家を建てるには、わが家の近くの持ち山から材木を切り出し、近くの田んぼなどで製材して、柱や板材を作っていました。組立作業は、大工の棟梁(とうりょう)の指示で、弟子の大工さんと、講中など地域の人々の力を借り、共同作業でやっていました。

現在の民家

また、家を建てる敷地(しきち)をつくるには、山野を切り崩し平らに整地していました。ですから、今日のように、大切な田畑をつぶして家を建てることはしていなかったようです。

また、飲み水や風呂水は、谷川や湧き水などから、家族が使う水量がしっかり確保できることも重要でした。実際に、この古民家の庭をのぞくと、前の小山に横穴を掘って、飲料水を取り込む湧き水取りの跡が見えました。

昭和５０年（１９７５年）頃の民家

皆さん方の昔の家を思い出してみてください。今日のように、上下水道が十分に整備されていないので、生活用水を確保するには、湧き水や谷川のきれいな水を大きな水がめに溜めたり、井戸を掘って水をくみ上げたりしていました。また、北風を避け、よい日当たりを考えて、東向きか、やや南向きに家を建てていました。

この古民家も、上記のような条件をよく考えて建ててあります。今も昔も、風水害を避けて、山裾(やますそ)の立地条件の良いところを考えて建築していたように思いました。（H. T）

「青少年の声を聞く会」で、丸岡君堂々の発表

さる１月１８日（土）、向原生涯学習センター「みらい」で行われた、第３４回青少年の声を聞く会において、長田６区の向原中１年　丸岡拓実君が、「世界で最も大切な家族」という題で、自分の考えを堂々と発表し、観客の大きな拍手をもらいました。

６区　丸岡拓実君

丸岡君は、３人兄弟の末っ子で、兄に命令されたり、両親や祖父母に叱られることが多かったりして、いつも自分の存在がいやだなあと思っていたそうです。だが、消防士をしている父や医療関係にかかわっている母の仕事内容を聞いているうちに、いつも命と向き合い、時に死と隣り合わせの、きびしい仕事に一所懸命に取り組んでいることを知り、自分がこうして幸せに生きていられるのは、家族の深い愛情に支えられているからだと強く考えるようになりました。そして、世界で一番大切な家族に感謝しながら、自分の目標を持って精いっぱい学校生活を送りたいと、決意していました。

右から３番目が丸岡君

「青少年の声を聞く会」は、児童生徒の育成にかかわる向原町内の３０近い団体でつくる青少年育成市民会議向原町支部の主催で、２１世紀に生きる青少年が、「論理的に考える力や自分の主張を正しく伝える力、創造する力」など、国際社会で生きていく力を育てるために、体験を通して学んだことを中心に意見発表をするものです。

今回は、小学生２名、中学生２名（１名は丸岡君）、高校生２名の意見発表や、外国の視察報告、向原こばと園のダンスや向原中ソーランなどの舞台表現もありました。

迫会長をはじめ、多くの町民が熱心に耳を傾け、応援の拍手を送っておられました。（Y. H）

向原こばと園のダンス

向原小のたいこ演奏

発行：　長田下地域自治振興会　　担当：　広報委員会、企画調整部
（広報委員：松田清、谷林文男、寺尾文尚、火上保雄、児玉尊子、金岡俊信、岩見達也）